

一関地域における畑わさび栽培導入の試み②

1 はじめに

一関管内では、遠野農林振興センター(以下「遠野農林セ」)が県南全域を対象として実施する「畑わさび産地づくり支援事業」を活用し、令和3年度に1名、令和4年度に2名が畑わさびの栽培を開始しました。今回、新たに2名が同事業により栽培を開始しましたので、その取組について紹介します。

2 圃場整備の状況

当センターでは、今年度は生産拡大を図るため、農林業以外を主業としている者を対象として、畑わさび栽培に関心がある方の情報収集や声掛けなどを行い、遠野農林セと現地調査を行ったうえで、圃場を以下の2箇所に決定しました。

令和5年11月に遠野の畑わさび栽培の専門家の指導の下、新規参入者は苗の植付けを行い、今後の管理について指導を受けました。

(1) 一関市大東町曾慶(面積:1.7a)

圃場は過去に大豆畑として使われており、現在までの数年間は休耕地となっていました。



苗の植付け(大東町)

(2) 一関市東山町田河津(面積:2.9a)

圃場は長期間使用していない休耕地であったため、水はけや除草等の作業効率を考慮して

畝を立てました。



苗の植付け(東山町)

各圃場とも広葉樹林が隣接していますが、直射日光が当たる部分には、来春に遮光ネットを設置する予定です。また、野生動物による食害を防止するために電気柵を設置しました。

植栽1ヶ月後に各圃場の生育状況を確認したところ、いずれもしっかりと活着し、特に大東町の圃場では新葉が確認できました。



畑わさびの新葉(大東町)

3 おわりに

これまでの取組で一関管内の畑わさび生産者は5名と増えており、新たな産地形成が期待されます。引き続き新規生産者の掘り起こしを行うとともに、生産者同士の情報交換の場を設けるなど遠野農林セと連携して畑わさび生産者への支援を行っていきます。